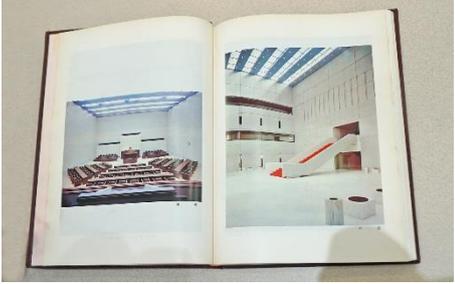


■After 建築名称 下段:英語名	茨城県立図書館 IBARAKI PREFECTURAL LIBRARY		
建築用途	大分類 図書館	小分類 図書館	
改修設計者	茨城県土木部営繕課・日建設計		URL
所在地	茨城県水戸市三の丸1-5-38		Google Map
改修年	2000年:図書館にリノベーション 2021年:ロビーが星乃珈琲店に		After 図書館と星乃珈琲のサイン以外は議会議事堂時代と殆ど変わらない正面外観
建築規模	地上4階、地下1階 延床面積:8,700.69㎡		撮影者 提供者 撮影:桐原武志 2023年
掲載書誌	新建築2002年2月号		概要 after リノベーションのテーマは「議事堂としての記憶を形に残す」と「空間の原型を残す」こと。
賞・選定	BELCA賞ベストリフォーム部門		
資料・その他	URL		
■Before 建築名称	茨城県議会議事堂		概要 before 1999年に茨城県本庁舎の新築移転にともない県議会議事堂としての役割を終えた。
建築用途	大分類 事務所	小分類 庁舎	
■写真 Before	「茨城県議会概要」に掲載された議会議事堂竣工時の議場(左)とホール(右)の写真	After 当初は議事堂のテーブルと椅子がそのまま使われていた視聴覚ホール兼閲覧室	After 2021年にロビーが星乃珈琲店にリノベーション
			
撮影者 提供者	資料提供:茨城県立図書館	撮影者 提供者 撮影:桐原武志 2023年	撮影者 提供者 撮影:桐原武志 2023年
■リノベーション内容	キーワード 用途変更、外観保存、痕跡	内容 議事堂としての「空間記憶」を、機能を満たしながら新図書館に継承していく事がメインテーマのリノベーション。 高い天井からトップライトが降り注ぐ議場はテーブルと椅子をそのまま利用し視聴覚ホール兼閲覧室に生まれ変わり、通常の設計では得られないリノベーションならではの閲覧空間が生まれている。 コンクリート打放しのエントランスホールは、低層部壁面に吸音材を付加する以外には極力手を入れず、従来そのままのダイナミックな空間を残したホールであったが、2021年に星乃珈琲店となり賑わいのある空間に変わった。しかし、議事堂のモダンイズム建築に挿入された星乃珈琲のデザインとの関わり方(特に壁面に付けられたアーチ状のブロンズミラーや階段脇の照明器具)については評価が分かれると思われる。 林昌二さんをご存命だったら何とおっしゃるでしょうか。	
■備考	<新建築2002年3月号 元議事堂の設計者として 林昌二 より抜粋>近代建築は、機能に忠実につくられているため、用途に変化が起きると寿命が尽きる。したがって短命を免れないとの説が、もっともらしく流されてきました。そのため、近代建築の短命を肯定する風潮が一般化し、私もそれを半ば肯定して来ました。・・・しかし、この「議事堂→図書館」の例をみると、簡単に短命説を信じるわけにはいなくなっています。プラント施設の類は別として、ヒトが使う施設でさえあれば、用途の変化に応じて再生させることは、実はかなり可能で、銀行がホテルになる、あるいは博物館になるといった例が日本でも生まれ始めています。壊して新築するか、再生するかの分かれ目は、機能の違いというよりは、その建築を使う人々の心の問題であるように思えてきます。・・・ <林昌二 1928年-2011年>		
■作成者 氏名/所属	桐原武志 Free/JIA再生部会		作成協力 茨城県立図書館